

鳳凰

平等院の目玉は、西方極楽浄土の仏像である阿弥陀如来坐像が納められた阿弥陀堂です。この建物は、鳳凰堂として知られています。この名前は、建物が鳥に似ていること、つまり中央の躯体から曲げ広げた翼と、屋根を飾る 2 羽の銅製の鳳凰像の両方に由来しています。鳳凰は東アジア神話において再生の象徴です。これらの彫像の長い翼と膨らんだ胸は、まさに飛び立とうとしていることを示唆しており、阿弥陀仏の西方極楽浄土への救出という鳳凰堂のイメージを助けています。

2 つの像は、鳳凰堂が 11 世紀に建立されたときに作成されました。遠くからは同じように見えますが、建物の北側の鳳凰は南側の鳳凰よりも高さが 4 センチ高く、南側の鳳凰は北側の鳳凰よりも幅が 10 センチ広がっています。日本政府は 1973 年に両像を国宝に指定し、その後、寺院は保存のために彫像を屋内に保管するようになりました。現在、屋根の上にある像はレプリカです。現在、平等院の博物館で見ることができる本物の像も、かつてはレプリカ同様、金箔で覆われていました。しかし、数千年に及んで大気中の物質へさらされたことより、コーティングが剥がれてしまいました。これらの不死鳥はおなじみのように見えるかもしれません。

この平等院の鳳凰は有名で、この鳳凰像はここでしか見ることはできませんが、建物の南側の不死鳥は 2004 年以来一万円札のデザインにも使われています。